

## 授業科目 聴覚心理学

【担当教員名】 吉岡 豊	対象学年	1	対象学科	言語
	開講時期	前期 b	必修選択	必修
	単位数	1	時間数	15
【ディプロマポリシーとの関連性】				
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現
◎	○	◎		
【概要・一般目標：G10】 人が音をどのように感じるのかに関する知識を習得し、言語聴覚士として聴覚の機能を理解する。				
【学習目標・行動目標：SB0】 1. 音の受容器としての耳について知識を確認する。 2. 音の物理的变化と心理的变化の対応について学ぶ。 3. 聴覚心理学に関する用語を理解する。 4. 聴覚の機能について学ぶ。 5. マスキングの原理について理解する。 6. 聴覚特有の現象について実際に体験して理解を深める。 7. 騒音について理解する。				
回数	授業計画・学習の主題		SB0 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	音の受容器		1	
2	可聴範囲と音の心理量について		2, 3	
3	音の大きさ・高さの知覚、時間分解能		3, 4	
4	音の心理的評価方法		3, 4	
5	マスキングについて		5	
6	両耳の効果について		6	
7	聴覚心理学的現象について		6	
8	騒音について		7	
【使用図書】				
	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)	言語聴覚士の音響学入門	吉田友敬	KAIBUNDO	2005・2,600円＋税
参考書	音の世界の心理学	重野 純	ナカニシヤ出版	2003・2,600円＋税
	聴覚と音響心理	境 久雄 編著	コロナ社	1978・4,600円＋税
	聴覚心理学概論	B. C. J. ムーア 著、大串健吾 監訳	誠信書房	1994・4,500円＋税
	音のイリュージョン	柏野牧夫	岩波書店	2010・1,200円＋税
その他の資料				
【評価方法】 2 / 3 以上の出席を持って定期試験受験資格とする。 成績は定期試験の結果に出席点を加味して行う。		【履修上の留意点】 実際に聴取体験をすると理解が深まるので、時間外であっても積極的な参加を求める。		